

骨を磨いた後、シワハイルカの説明を聞く子どもたち=25日、座間味村座間味島の阿佐地区海岸



海の教材で命学ぶ

ホエール
フェスタ 標準作りに挑戦 座間味

【座間味】ホエールウォッチングフェスタ2011 報社の一環で、シワハイルカ2(主催・同実行委員会、共催・村、村商工会、琉球新報社)の二環で、シワハイ

ルカの骨格を発掘しよう」と題した体験会が25日、座間味島の阿佐地区海岸であった。座間味、阿嘉、慶留間の3幼小中学校の子どもたちや保護者、観光客ら80人余が参加した。

シワハイルカは2011年8月6日に台風9号が接近した際、同島のビーチに迷い込み住民に保護されたが、翌日に死亡した。住民らは海がくれた教材として標本製作を企画。

25日は国立科学博物館研究員の山田格さんらの指導の下で取り組んだ。

座間味小4年の田中天(10)は「人間と違い、イルカの首の骨は三角などいろんな形をしていることに驚いた」と語った。